

4つの自治体に学ぶ！

kintone全庁 DX事例集

部署の壁を超えた情報共有で、持続可能な組織へ



目次

自治体DXのよくあるお悩み	03
自治体には選ばれるkintoneとは	04
自治体の業務改善マップ	05
kintone全庁活用事例	
焼津市	06
茅ヶ崎市	08
埼玉県	10
神戸市	12
全庁活用までの4ステップ	14
kintoneの全庁活用効果	16
ステップ別 お役立ち資料・セミナー	17
セキュリティとサポート	18



自治体のDX推進、 こんなお悩みありませんか？



紙業務が多く、
手間と時間がかかる…

異動が多くて
引き継ぎが大変…
前任者にしかわからない
Excelがある…

関わる部署が多いと
情報連携が難しい…
転記作業も多くなる…

部署ごとに
システムが乱立し、
データがバラバラ…

ツールを導入しても
原課の方に
使ってもらえるのかな…

全庁で使うと
どんないいことがあるか
わからない…

kintoneの全庁活用で

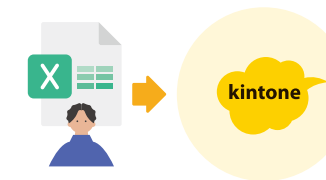
これらのお悩みを解決

ペーパーレス化



管理も情報共有も
kintoneで簡単に

脱Excel&脱属人化



お使いのExcelを
今日からkintone化
引き継ぎも楽々

中継作業の極小化



複数の部署や庁外と関わる
作業をkintoneで
組織全体の作業時間を大幅削減

組織横断の情報共有を強化



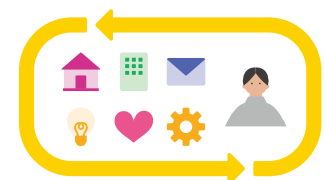
共通のプラットフォームで
部や課を超えた情報共有を

原課主導の改善文化醸成



原課の職員が
業務改善の効果を実感
さらなる業務改善意欲の向上へ

全体最適の実現



組織全体のDX推進により
持続可能な住民サービスの
提供が可能に



自治体の業務改革に選ばれている kintone(キントーン)とは？

kintoneは、AIとノーコードで自治体の業務にぴったりなシステムをつくれる業務改善プラットフォームです。さらに、チーム内の円滑なコミュニケーションも実現でき、多くの自治体業務の中に根付く「紙文化」「属人化」からの脱却をはかれます。

POINT 1

自治体の導入実績が豊富

どんな自治体のどんな業務にもぴったり合うシステムになります。



のべ500以上の自治体・省庁が導入！

POINT 2

誰でもシュシュッと作れる、改善できる

AIやドラッグ&ドロップ操作で簡単にシステム構築できます。作成後も柔軟に仕様を変更できるため、原課職員が使いやすいシステムへすばやく改善可能です。



POINT 3

データに紐づいたコミュニケーション

データに紐づいたコメントが可能のため、情報が分散しません。Excelを添付したメールでのやりとりも最小限になります。また、お使いのExcelファイルを読み込むだけで、チームで共有可能なkintoneアプリに。貯めたデータをグラフで見える化し、共有することも可能です。



POINT 4

プラグイン・連携サービスで庁外連携や地図連携も

豊富なプラグイン・連携サービスで庁外とのやりとりや地図連携も実現。充実した住民サービスの提供にもつながります。



POINT 5

安心のセキュリティ・ネットワーク対応

ネットワーク kintoneはLGWAN/GSS経由でご利用いただくことも可能です。

セキュリティ kintoneは政府情報システムのためのセキュリティ評価制度 (ISMAP) クラウドサービスリストに登録されています。また、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の認証を取得しています。kintoneはISO/IEC27001規格の*アドオン規格であるISO/IEC27017認証を取得しています。

*アドオン規格: ISO/IEC27001認証取得を前提とし追加で取得できる認証です。
※認証登録範囲: cybozu.com、Garoon、kintone、サイボウズ Office、メールワイズの提供に係るクラウドサービスプロバイダとしてのシステム運用・保守に係るISMSクラウドセキュリティマネジメントシステム



CLOUD 715091 / ISO 27017



kintoneで広げる！ 自治体の業務改善マップ

全庁で使う

通知

- 庁内指示／通知
- 庁内アンケート
- 全庁ポータル

文書管理

- マニュアル管理
- 文書管理

申請・承認

- 押印申請
- 経費申請
- 勤怠申請
- 庁内稟議申請
- 出張申請

庁内FAQ

- ナレッジ共有
- 庁内質問箱

庁外の人とのやりとり

- プロジェクト管理
- コミュニケーション
- ファイル共有

各部門で使う

企画振興部門

- プロジェクト管理
- 問い合わせ管理
- 防災備蓄品管理
- プレスリリース管理
- 市民の声・公聴管理
- イベント管理

財務・会計部門

- 予算執行状況管理
- KPI管理
- 政党要望等管理
- 諸手当管理
- タスク管理

人事・総務部門

- 問い合わせ管理
- 職員採用選考管理
- 研修コンテンツ管理
- 職員名簿管理
- 会議室予約管理
- 入札管理

地域振興・文化スポーツ部門

- ふるさと納税管理
- ボランティア募集管理
- 協議会名簿管理

福祉・医療部門

- 補助金申請管理
- 医療機関・保健所等との情報共有
- 施設情報管理

産業労働部門

- 中小企業融資管理

システム部門

- 問い合わせ管理
- システム調達管理
- 貸出機器管理
- ヘルプデスク窓口

都市整備部門

- 工事指示・報告管理
- 土地境界確定申請管理
- 街灯管理

教育部門

- 校舎修繕依頼管理
- 児童行動記録管理
- 調査票申請受付
- 就学援助金管理
- 就学援助金管理

農林水産部門

- 鳥獣対策管理
- 農業支援アシスト相談業務

など

実証実験で効果を証明！ 5業務の「スモールスタート」から 全庁DXへ拡大



焼津市

利用用途

各原課業務、広報紙・LINE配信の制作管理、
掲示板システムなど、全庁や外部機関も含む情報共有

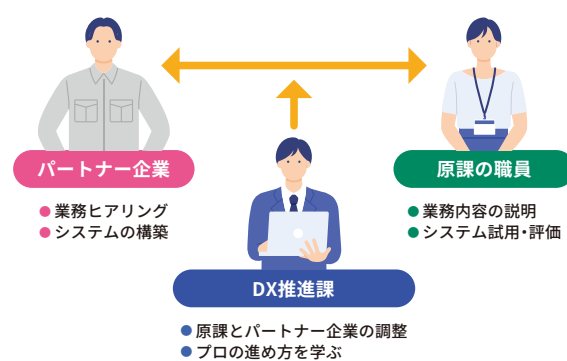
複雑化したExcelやAccessが足かせに。属人化による管理コストが限界

庁内の多くの業務でExcelやAccessが活用されていたが、長年にわたる運用でファイル構成が複雑化・肥大化していた。特にマクロを組んだ担当者が異動すると、後任者が修正できない「属人化」の問題が深刻化。ファイルを開くだけで時間がかかったり、同時編集ができずに業務が停滞したりと、現場の効率を大きく阻害していた。こうした現場からのSOSはDX推進課にも頻繁に届いた

が、個別の改修要望全てに対応する人的リソースはなく、抜本的な解決策が必要だった。システム導入には予算もかかるが、本当に現場で使いこなせるのか、費用対効果は見合うのかといった懸念もあり、いきなり全庁規模でのシステム刷新に踏み切るにはリスクが高いというジレンマも抱えていた。

「スモールスタート」で効果を検証。確かな成果が全庁展開の礎に

そこで、全職員が無料でkintoneを使えるキャンペーンをトライアルとして活用し、1年間の実証実験を開始。まずは庁内公募で選定した5つの業務に絞ってデジタル（アプリ）化を行う業務改善をスタートした。サイボウズのオフィシャルパートナー企業の伴走支援を受けながら、現場職員が自らアプリ構築に関わることで、業務にフィットしたアプリを短期間で実現した。「自分たちでも作れる」という手応えと、具体的な削減効果というエビデンスが得られたことで、全庁的な本格導入へと迷いなく舵を切ることができた。



パートナー企業の支援を受けてスピーディに効果検証

全庁にある中継作業を削減して職員をラクに

現場職員がサイボウズのオフィシャルパートナー企業と共にアプリ構築に関わる過程で、「与えられたシステムを使う」のではなく「自分たちで業務を改善する」という市民開発マインドが醸成。当初5業務の予定が期間中に93ものアプリが試作されるほどの熱量を生み出した。この取り組みが更に進み、他部署からの相談や利用希望が急増。事業者や他部署など、複数の相手から1件ずつ

届く情報を集約する“中継作業”をラクにするという点が注目され、福祉イベントへの参加事業者と情報を共有する「掲示板アプリ」や、事業者の支払い明細をオンライン上で閲覧可能にする「市支払い明細履歴照会アプリ」などで活用されている。その結果、一部の業務では作業時間を90%以上削減するなど、劇的な効果を実現した。

中継作業の削減を実現したkintoneの業務アプリ

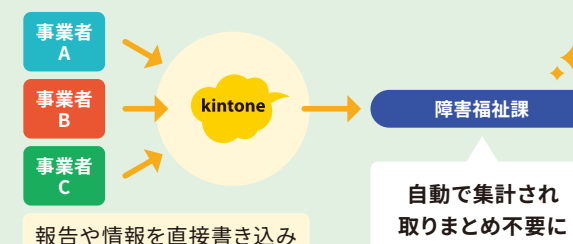
広報紙・LINE配信の制作管理アプリ

従来は各課からの依頼や原稿のやり取りをメールで行っていた。掲載する画像は別の場所にアップロードされ、紐づけや進行管理も煩雑だったが、それがkintoneだけで業務を完結できるようになった。



掲示板アプリ

複数事業者からのイベント参加報告をメール・電話で受領していた。事業者間の情報共有を担当部署が中継していたが、それを掲示板アプリで一覧化。事業者が直接報告や情報を書き込みできるように。



DX推進担当者の声



行政経営部
DX推進課 係長
鈴木 寿彦 氏

業務改善ができる環境を平等に提供したかったのが、全職員への導入を決めました。一部の部署だけの導入では、職員が異動してしまえばその先の発展はありません。部署を限定せず同じ改善環境をつくることで、職員に“全体最適”の視点をもってほしかったのです。



行政経営部
DX推進課 主査
有賀 友彦 氏

ExcelやAccessの属人化は長年の課題でしたが、kintoneによって現場職員が自ら修正・管理できる環境が整いつつあります。実証実験を通じて職員のデジタルスキルも向上し、現場主導で業務フローを見直す良いきっかけになったと実感しています。

庁内からはじめ、 外部も巻き込んでDXの波に乗せる 茅ヶ崎流“全員参加”の業務改革



茅ヶ崎市

利用用途

照会業務、議会事務、標準化プロジェクト管理、
給付金事務、保育コンシェルジュ予約管理など、
全庁や外部機関も含む情報共有

庁内全体のDXのため「表計算ソフト」の課題に着目

同市では、令和4年度にデジタル推進課が発足。庁内全体のDXに注力していく中で、Excelが複数人での編集作業や計算処理以外のデータ管理など、表計算ソフトとして不向きな用途で使われている、という課題に着目。「これをなんとかしたい」と考えていた。そんな中、職員からkintoneを活用してはどうかと提案があった。ITの専門知識がない職員でも業務用アプリ

ケーションをノーコードで開発でき、データの同時編集やファイル共有なども容易になるという。早速調べてみると、全職員が最大13ヶ月無料で使えるキャンペーンを実施中だった。「ちょうど、部署の垣根なく全員で取り組めるものを探していたところだったのです。ISMAP^{※1}登録の安心感もあり、申し込みを決定しました」。

※1 ISMAP=Information system Security Management and Assessment Program(政府情報システムのためのセキュリティ評価制度)

“全員参加”の業務改革、さらには庁外も巻き込んでDXの恩恵を拡大

まず、デジタル推進課で庁内の照会業務や議会事務など、全庁で利用するアプリを開発。さらに、各課への説明会、少人数研修や個別相談会を頻繁に実施し、アプリ構築の伴走にも力を入れた。そんな中でも、こだわっている点があるという。「職員の異動などがあっても使いつづけられるよう、各課で利用するアプリの構築は担当課内で行ってもらいます。サポートは全力で行いますが、主役は現場です」。こうして各課でもさらに改善が進み、アカウントも全職員^{※2}が利用可能となったことで、現

在は50課以上が業務に活用中だ。また、外部とつながれる「ゲストユーザー」機能の活用効果も大きい。「保育園や福祉施設など、様々な外部機関とのやり取りがあります。従来はメールや電話でしたが、kintoneで連絡やファイル共有が可能になり、令和6年度はそれらにかかる時間を年間1,765時間ほど削減できました」。ゲストユーザーの導入は今後11課に拡大し、さらに年間4,791時間の削減効果が見込まれている。

※2 一般行政職員数と同数

茅ヶ崎市でのkintone活用業務例

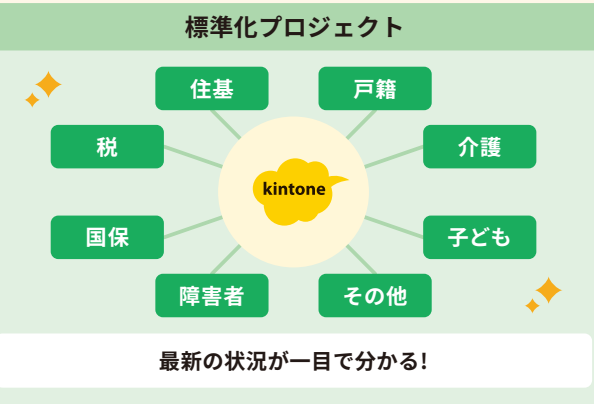
全職員や部署横断の業務で

全庁照会アプリ

Excelを各課に送付・回収・集計する方法だった照会業務をkintoneアプリに変更。業務がスムーズに。

標準化プロジェクト

多くの課が関わる標準化プロジェクトのために、チームの専用スペースを作成。最新の情報の共有や進捗が管理できるようになり、煩雑だったやり取りが一元化された。



住民や外部機関との業務で

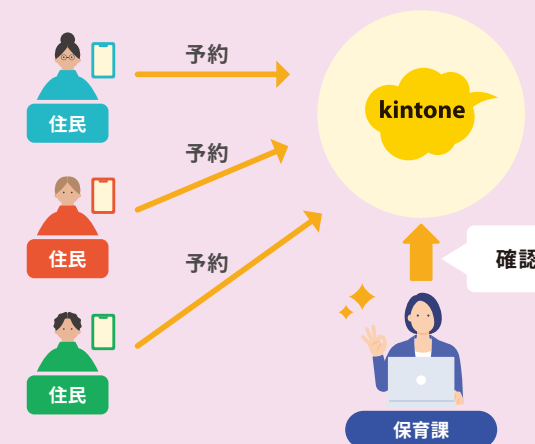
保育コンシェルジュ予約アプリ

「保育コンシェルジュ」は完全予約制。住民は開庁時間に電話で予約する必要があり、保育課では予約を紙で管理、電話対応もこなしていた。そこでkintoneで予約アプリを開発。住民はオンラインで24時間予約可能になり、保育課でも電話対応や調整が不要に。

給付金事務スペース

給付金関連業務をコールセンター委託しているが、対応に必要な情報がバラバラの場所にあったため、委託先から生活支援課に電話やメールでの確認が多く届いていた。そこで、生活支援課、委託先両方で使うkintoneのスペースを用意し、情報共有を効率化。他の給付金事務にも同じ仕組みを転用している。

保育コンシェルジュ予約アプリ



DX推進担当者の声



企画政策部
デジタル推進課
松原 大氏

職員の異動などがあっても使いつづけられるよう、アプリ構築は担当課内で行ってもらいました。サポートは全力で行いますが、主役は現場です。



企画政策部
デジタル推進課
課長補佐
足立 悠氏

DXの推進にあたり、「全員参加で取り組む」ことを目標としています。そうした中、kintoneの利用者は毎年度増加しており、様々なアプリ等が作成されています。優良事例は積極的に横展開し、業務効率化・仕事の質の向上に引き続き取り組んでいきます。



埼玉県が推し進める DX実現の強力なツールに

1万3000人が活用する全庁的な情報共有基盤となったkintone



埼玉県

利用用途

照会業務、庁内からの業務依頼、
全庁的な情報共有

組織を越えた情報共有の欠如とExcelバケツリレーによる業務負担

他部署から情報を取り寄せる際には、Excelファイルをメールなどでやり取りするバケツリレー形式の照会回答業務が年間数百件発生しており、膨大な手間がかかっていた。

民間企業出身の職員からも、共通の情報共有基盤がない点が懸念として上げられるなど、アナログな手法からの脱却と、全庁的な情報共有を可能にする仕組みの構築が課題となっていた。

詳細なアクセス制御とワークフロー機能を備えたkintoneの採用

照会回答業務を効率化できる可能性を秘めたプラットフォームとしてkintoneに着目。情報蓄積可能なノーコード開発の基盤であることはもちろん、200以上の課所が存在する県庁において不可欠な詳細なアクセス権限の設定が可能な点を高く評価。また、単なる情報共有だけでなく、上長や関連部署の承認プロセスを組み込むプロセス管理機能や、レコードごとにやり取りできるコメント機能も高く評価。

柔軟なアクセス制御とノーコード開発が可能な環境を条件に公募し、照会回答業務を中心としたTX(タスク・トランスフォーメーション)*推進の中核的プラットフォームとしてkintoneが正式に採用された。

※TX(タスク・トランスフォーメーション):「生成AIやノーコードツールなどのデジタル技術を活用し、機械でできることは機械に任せ、人は人にしかできない業務に注力する」という埼玉県の取り組み。



1万3千人が活用するTX基盤へ成長、
業務改善コンテストの半分はkintone活用事例

埼玉県庁のkintone 活用例

報道発表管理



各課から報道発表をする予定の情報を収集し、報道発表後のリリース情報の結果も含めた管理。

5か年計画管理



県政運営の基礎となる5か年計画における各課の施策進捗管理や次の計画策定に向けた情報収集。

環境データDB



県民に向けて外部公開が必要な環境データを記録、プラグインを活用して公開作業を効率化。

問い合わせ管理



県民からの要望や庁内からの各種問い合わせ、相談内容を集約、管理。他部門とも共有。

実績管理



庁内のコピー使用量等、様々な実績をアプリで全庁に照会し、回答を集約。地域機関から本庁への報告も実施。国への定期的な報告も、グラフを用いて集計を効率化。

庁内業務依頼



庁内における他課への業務依頼に活用し、プロセス管理を用いて、受付状況等進捗管理を互いに共有。

次年度事業提案募集



次年度の事業立案に向けて各課からの提案を集約、企画部門や財政部門などが横断的に活用。

契約管理



締結予定の契約の起案の進捗状況から、契約締結後の管理までDB化。課内だけでなく、部内でも共有。

当初は500人から開始し、事例を積み重ねながら現在は全職員1万3千人にライセンスが付与され、400超のアプリが稼働するまでに拡大。

現場からは「他部署の情報が把握しやすくなった」と評価の声が上がり、省力化で生まれた時間を質の高い業務に

充てられるようになったと好評だ。今や庁内の業務改善コンテストの半数以上がkintone活用事例となるなど、職員自らが業務を変革する文化の醸成にkintoneが大きく貢献している。

DX推進担当者の声



企画財政部
行政・デジタル改革課
砂川 里帆 氏

企業文化として情報共有、公開が根付いているサイボウズに興味を持ったことがきっかけでkintoneを知り、情報をDB化だけでなく、アクセス権の設定やワークフローの実装など、多種多様な照会回答業務に適した基盤として高く評価、所属する職員1万3000人に向けた全庁的な展開を行っています。今では業務改善の施策に関する内部的なコンテストでも半分以上はkintoneでの事例となっているほど。DX推進の中核的な業務基盤として、今後も期待しています。



企画財政部
行政・デジタル改革課
平田 敦也 氏

kintoneのアプリ作成権限を全職員に持たせており、事前に申請いただいたうえで自由にアプリ作成できるようにしています。照会回答業務を中心に、問い合わせ管理など必要に応じたさまざまなアプリが現場で作成されています。学びのコンテンツが充実していることでアプリが作りやすく、現場自ら業務改善に向けた環境が整備できるのも、ノーコード開発が可能なkintoneだからこそでした。



アプリの市民開発を 仕組みとガバナンスで守る

持続可能な全庁基盤が生み出す、工夫と価値の循環



KOBE 
UNESCO City of Design

神戸市

利用用途

全庁にまたがる問合せ管理、
契約手続進捗状況管理など、
各原課業務の業務改善のほか、外部機関含む情報共有

全庁展開で顕在化した「野良アプリ」の放置リスク

10アカウントの試験導入から始まったkintone活用は、コロナ禍での実績や口コミを通じて急速に拡大し、令和6年度には利用規模が2,000人から1万人となり、全庁的なDX基盤としての活用に舵を切った。しかし、多くの職員による自由な開発は、ガバナンスに開するリスクを顕在化させた。現場主導を優先しルールを緩やかにしていたことで、目的や責任者が曖昧な「野良

アプリ」が増殖。担当者の異動後に放置されるアプリや、アクセス権限が適切に管理されていないアプリなど、持続的な運用を脅かす問題が浮上した。全庁基盤として継続させるためには、野良アプリの抑止とアプリ品質の底上げを両立するガバナンスの整備が不可欠となった。

業務アプリの本運用申請と棚卸の仕組みで、持続可能な全庁DX基盤へ

持続的な稼働に向け、ガバナンスとしてのアプリ作成ルールを実装した。kintoneのアプリ作成を専用の「作成用スペース」に限定し、神戸市独自のアプリ本運用申請で承認を得て初めて、所属スペースでの運用を許可するフローを確立。

また、一定期間申請のないアプリを棚卸対象とすることで、放置アプリを生まない環境を構築した。利用者にとって一定の手間を課してでも、管理責任を明確にすることでガバナンスを仕組み化。多くの業務改善アプリを生み出してきた成長フェーズを経て蓄積されたノウハウをもとに、個人の自由な開発を組織の安全な資産へと昇華させ、全庁DXを支える盤石な基盤へと進化させた。

現在では、本運用中のアプリ数は2,000を超え、全36局中31局に利用されており、現場の創意工夫を組織が正しく支えることで、職員の意識変革と圧倒的な業務効率化を同時に実現している。



改善を「資産」として全庁へ展開する4つのステップ

ガバナンスと並行して、神戸市が重視しているのがアプリの質の向上だ。単発の改善で終わらず、優良事例から得られた知見を蓄積し、全庁へ共有して「資産」として活用するため、個別事例の知見を全庁的な資産へと展開し

ていくサイクルを設計している。この取り組みは道半ばだが、「事例発掘→庁内広報→テンプレ化→展開」という理想的なムーブメントを継続し、全庁の改善速度を底上げしていく想定だ。

神戸市の「個別事例→全庁資産」展開サイクル



DX推進担当者の声



デジタル戦略部
ICT業務改革担当
後藤田 朋弥 氏

全庁でkintoneを活用し利用が一気に広がるほど、自由な開発と統制の両立が重要になります。野良アプリを生まない仕組み(作成スペースの限定・本運用申請・棚卸)を整えつつ、優良事例をテンプレ化して研修で展開する流れを作っています。“改善が資産として残る”運用を継続し、全庁的なDX基盤としてkintoneを育てていきたいです。



kintoneを全庁で活用するまでの4ステップ

原課の職員が自ら業務アプリを作り改善していく取り組み(=市民開発)を推進することで、全庁でのDXをよりスピーディーに広範囲で推進することができます。
kintoneにはそのために必要な「原課の職員でも開発できる操作性」と「全庁的な運用ルールを整備するための管理機能」の両方が備わっています。
全庁での市民開発の実現に向けたステップを、kintoneの強みとともに4つに分けて解説します。



① 始める

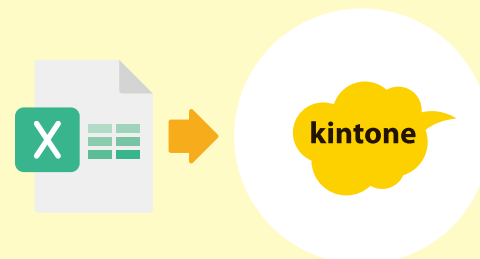
スモールスタートしてみよう

アクション

- 属人化したExcel台帳や手書きの紙日報など、原課が不便に感じている業務をkintoneで置き換える
- まずは1つの業務で「原課での成功体験」を積む

kintoneの強み

- 今使っているExcelをkintoneに読み込むだけで、Webブラウザ上で編集・共有・管理が可能な業務システムに変換できます



Excelを読み込むだけで簡単にkintoneアプリに

活用例

- おくやみ窓口業務
- 介護相談と認定審査業務
- 鳥獣被害対策業務

② 広げる

横展開してみよう

アクション

- 成功事例を庁内説明会やデモで紹介し、他にも似た課題を抱えている部署を見つけ、成功事例を横展開して解決する

kintoneの強み

- 既存のアプリは簡単に複製できます
- テンプレート機能を使えば、成功事例を他課に展開可能です



総務課の問い合わせ管理アプリを複製して企画課でも活用

活用例

- 問い合わせ管理業務
- 備品管理業務



③ みんなで使う

全職員が使う環境を作ってみよう

アクション

- 人事評価や出張申請、公用車管理など、「全職員が必ず関わる業務」をkintone化
- 職員がkintoneに触れる機会を増やし、改善効果を実感してもらう

kintoneの強み

- 原課職員でも使いやすいUI
- データに紐づいたコミュニケーションで、ファイル+メールの庁内連絡から脱却
- 課を跨いで同じデータにアクセスできるため、異なる部局同士での連携が深まります



データに紐づけてスムーズにコミュニケーション可能

活用例

- 人事評価業務
- 公用車管理業務
- 施設予約業務

年度	公用車番号	車名+登録番号
20XX	1234	XXXXXX 〇〇000 X 1234
管理課	使用燃料	装備等
XXXXXX課	XXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXX
前回オイル交換日	走行距離	次回オイル交換予定距離
20XX-XX-XX	XXXXXX	XXXXXX

公用車管理業務(点検)での活用例

④ みんなで作る

全庁での基盤化を進めよう

アクション

- 興味を持った職員がいつでもkintoneを学び、業務改善ができる環境を作る
- ガバナンス・ルール整備を通じて、支援体制を整える

kintoneの強み

- アプリ作成AIを使えば、はじめての方でも簡単に作りたいアプリを作れます
- アクセス権もユーザー単位で細かく設定でき、安心して利用可能です
- 運用ルールは、ガイドラインやコミュニティを活用して先進事例を参考にすることができます



AIにつくりたいアプリを伝え、会話をしながら理想のアプリを作成してくれる

取り組み例

- 庁内向けのkintoneハンズオンセミナーを開催
- kintoneユーザー同士が情報交換できる場所(掲示板など)を作る
- 庁内でkintone活用事例発表会を開催
- アプリ作成権限を付与する庁内資格制度を設置

kintoneの全庁活用効果

kintone全庁活用で実現した効果を6つの観点で整理しました。
 属人化の解消や紙業務の削減といった改善から、組織横断の情報共有や改善文化の醸成といった全体の変革まで、
 kintoneは段階的に導入効果を上げることができます。

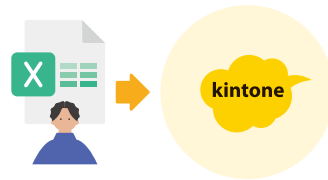
ペーパーレス化



紙や電話・FAXで行っていた申請・管理業務をkintoneに置き換えて、紙使用量の大幅削減と業務効率化を同時に実現。

さらに住民手続きのオンライン化により、利便性の向上と職員の負荷軽減を両立した例も。

脱Excel&脱属人化



Excelの「作った人だけが分かる」運用から脱却。kintoneなら複数人で管理でき、アプリに運用情報を残せるので、異動時も業務が滞りません。

また各課が自らアプリを構築・運用する体制づくりで、職員のデジタルスキルの底上げにもつながります。

中継作業の極小化



複数部署や庁外にまたがる連絡・転記・確認作業をkintoneでまとめて管理。何度もメールにExcelを添付する煩雑なやりとりは不要に。

さらに転記や手入力が減ることで、人的ミスの防止にもつながります。

組織横断の情報共有を強化



各課がExcel内に閉じていた情報をkintone上で可視化・共有し、部署間の壁を解消。

見たいデータにアクセスしやすくなり、情報の流れがシンプルになります。

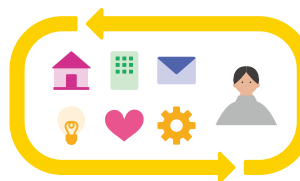
原課主導の改善文化醸成



「自分たちでも作れる」という成功体験が、現場のさらなる改善意欲を喚起し好循環を生みます。

さらに改善活動が他部署へ波及すると、現場主導の業務改善文化として組織に定着していきます。

全体最適の実現



全職員へ共通の業務改善環境を提供することで、異動があっても途切れない持続的な業務改善を実現します。

組織全体の機動力やDX推進への意識が向上し、限られた職員数でも住民サービスを支える基盤になります。

ステップ別 お役立ち資料・セミナー

① 始める

② 広げる

③ みんなで使う

④ みんなで作る

セミナー・動画

資料・Webサイト

はじめての方向けkintone紹介セミナー



【オンデマンド】kintone自治体活用術セミナー1



【オンデマンド】kintone自治体活用術セミナー2



【オンデマンド】kintone自治体活用術セミナー3



【オンデマンド】kintone自治体活用術セミナー4



官公庁の方向けkintone基本の資料



ガバナンスガイドライン



【ガブキン】自治体・省庁kintoneずかん



DX人材育成ガイドライン



自治体導入事例



市民開発ガイドライン



官公庁の方専用お問い合わせ窓口

「kintone導入の進め方を相談したい」
 「機能や価格、キャンペーンについて詳しく知りたい」
 「自庁の課題がkintoneで解決できるのか確認したい」

このような悩みをお持ちの方はぜひ、
 官公庁の方専用お問い合わせ窓口までお気軽にご相談ください。

<https://kintone.cybozu.co.jp/jp/government/if/>

窓口はこちら



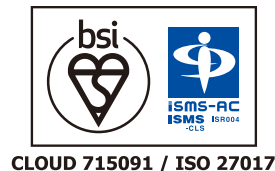
セキュリティとサポート



セキュリティとデータ管理

外部機関の評価

kintoneはISMAP（政府情報システムのためのセキュリティ評価制度）に登録済みです。さらに、ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）について、第三者機関から下記の認証を取得しています。



ISO/IEC 27001(情報セキュリティ)

認証登録範囲：

- 自社開発クラウドサービスの運用基盤の設計、構築、保守
 - 社内情報システム基盤の設計、構築及び運用保守
 - クラウドサービス、オンプレミス製品及び社内システムの開発
- 認証登録番号：IS 577142
認証登録機関：BSIグループジャパン株式会社

ISO/IEC 27017(クラウドサービスセキュリティ)

認証登録範囲：

cybozu.com、Garoon、kintone、サイボウズ Office、メールワイズの提供に係るクラウドサービスプロバイダとしてのシステム運用・保守に係る ISMSクラウドセキュリティマネジメントシステム
認証登録番号：CLOUD 715091
認証登録機関：BSIグループジャパン株式会社

個人情報等の取り扱い

多くの導入自治体では、総務省のガイドラインに基づき、「特定個人情報（マイナンバー）」を除いた「機密性2」以上の情報については、取り扱いを可能と判断しています。ただし、情報の重要度やリスクに応じて個別に判断を行う運用が一般的です。

アクセス制限

SAML認証によるシングルサインオン、認証アプリによる2要素認証やIPアドレス制限、またオプション機能のセキュアアクセス（端末認証）などによって外部からの不正なアクセスを防止することもできます。

ネットワークモデル

kintoneは複数の自治体で三層分離におけるαモデル・βモデル・β'モデルでの利用実績があります。よりセキュアなネットワーク環境で利用したい場合、LGWAN/GSSからkintoneを利用することもできます。



導入と運用サポート

導入時も安心の体制

サイボウズでは官公庁担当のスタッフで対応する専用のお問い合わせ窓口を用意しています。また、導入から運用まで伴走支援するサイボウズオフィシャルパートナーが全国各地にあり、安心の体制で活用をスタートできます。



行政職員限定コミュニティ「ガブキン」

行政職員限定のオンラインコミュニティ「ガブキン」では、他自治体の成功事例やノウハウを学ぶことができます。自治体・省庁の職員であれば、kintone導入有無に関わらずどなたでも参加いただけます。ガブキンには、セミナー動画やお役立ち資料、すぐに使えるテンプレート集「自治体・省庁kintoneずかん」など、kintoneに関するDX人材育成コンテンツも充実しています。



充実のカスタマーサポート

kintoneご契約済みの管理者の方^{※1}は、チャット・メール・お電話^{※2}でお問い合わせを受け付けています。

チャット・メール・お電話のご利用方法



サイボウズ共通管理権限を持つユーザーでサービスへログインします



画面右上の「？」をクリックし、「お問い合わせ」を選択します

受付時間

月～金
10:00～12:00
13:00～17:30
(祝日・年末年始は除く)

※1:kintoneご契約中または無料お試し中のお客様のうち、cybozu.com共通管理者として登録されているお客様（「Administrator」権限を持つユーザー様）

※2: ライトコースには電話サポートが含まれません

価格・キャンペーン



自治体全職員導入キャンペーン

自治体での全職員導入の場合、通常価格よりも
最大で70%割引でご提供する「自治体全職員導入キャンペーン」を実施中です。
キントーンは全職員で活用することで、スムーズな情報共有や業務改善を実現でき、
大きな効果を発揮することができます。

ご利用人数	スタンダードコース 月額	スタンダードコース 年額
3,001人～	540円/1ユーザー	6,480円/1ユーザー
2,001人～3,000人	590円/1ユーザー	7,080円/1ユーザー
1,001人～2,000人	640円/1ユーザー	7,680円/1ユーザー
101人～1,000人	690円/1ユーザー	8,280円/1ユーザー

※価格に消費税は含みません。

対象団体

普通地方公共団体(都道府県、市区町村)及び特別区

※総務省が公表する最新の「地方公共団体定員管理調査結果」に示されている、一般行政部門(一般管理+福祉関係)の職員数以上のユーザー数でご契約いただく場合に適用されます。

※一般行政部門の職員数が101名に満たない場合でも、臨時・非常勤職員などを含めて101名以上のユーザー数で契約いただくと、キャンペーン価格を適用可能です。

アカデミック/ガバメントライセンス

学校法人での校務利用や、官公庁などの公共団体での業務利用のための、キントーンのリценズです。

基本機能が使える ライトコース	カスタマイズやプラグイン利用ができる スタンダードコース
月額 600円/1ユーザー (ゲストユーザー 420円/1ユーザー)	月額 1,080円/1ユーザー (ゲストユーザー 870円/1ユーザー)
年額 7,200円/1ユーザー (ゲストユーザー 5,040円/1ユーザー)	年額 12,960円/1ユーザー (ゲストユーザー 10,440円/1ユーザー)

※価格に消費税は含みません。※最小10ユーザーから契約いただけます。11ユーザー以上は1ユーザー単位で契約可能です。

詳細はkintone自治体特設サイトをご確認ください。
<https://kintone.cybozu.co.jp/jp/government/price/>



サービスに関するお問い合わせは、kintone Webサイトへ

<https://kintone.cybozu.co.jp/>

※サイボウズ、cybozu、kintone およびサイボウズのロゴマークはサイボウズ株式会社の登録商標または商標です。※記載された商品名、各製品名は各社の登録商標または商標です。また、当社製品には他社の著作物が含まれていることがあります。

<https://cybozu.co.jp/logotypes/trademark/>

© Cybozu, Inc.

制作協力: ジチタイワークス

※本カタログの内容は変更になる場合がございます。

お問い合わせ先

2026年8月版 KI-LGDX-002